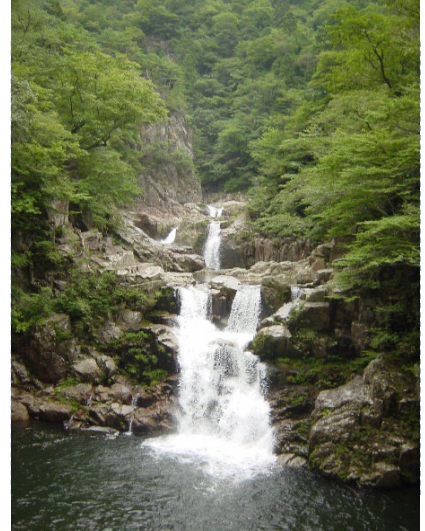


# 総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

## 優良事業事例団体

団体名: 広島県安芸太田町  
安芸太田病院

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| ■人口           | : 5,526名(令和6年1月末時点) |
| ■面積           | : 341.89平方キロメートル    |
| ■主な産業         | : 農業・林業、観光          |
| ■地域情報化アドバイザー名 | : 北岡有喜 氏            |
| ■派遣対応年度       | : 令和4年度             |
| ■派遣回数         | : 10回(オンライン支援)      |
| ■支援形態         | : 支援・助言             |
| ■支援分野         | : 医療・介護・健康          |



## 優良事業概要

■事業名: DX推進によるへき地医療の改革

■事業の概要:

安芸太田町DX推進計画による健康・医療・介護・福祉分野の連携実現  
安芸太田町版PHR導入後の実働及び活用に向けてのアドバイスを受ける  
健診データ・医療データ・介護データを一元的にPHRで管理するため実証

■アドバイザーへの依頼内容:

- ①安芸太田町DX推進計画における助言
- ②地域ICT支援事業への応募に際して計画策定に関する技術支援およびコンソーシアムのメンバー選定に対する助言
- ③PHR導入後の運用に関する支援
- ④町内のマイナンバー普及率は比較的高いので、マイナンバーを利用したPHR普及の方策及び医療機関からのデータ、吸い出しの技術的援助、助言

## 地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

■支援を受けた内容:

ポケットカルテは、個人向けの医療情報サービス(PHR = Personal Health Records)としては、日本で初めてのサービスとして、アドバイザーである北岡有喜先生が考案、開発され医療機関ごとに管理されている住民の医療履歴を時系列に集約できる仕組みとなっています。

安芸太田町では、公立病院である安芸太田病院と戸河内診療所で導入を進めてきました。特に、本院が使用している電子カルテの情報をポケットカルテ側に情報が共有できるシステム構築に対して、専門的な知識をもって実装可能までのプログラム構成など助言をいただきました。

更に、町民や患者にポケットカルテの運用のアナウンスについて、これまでの周知方法をアドバイスいただき、町内イベントへの出展や、有効なPR方法についてパンフレット作成等の指導をいただきました。

## 支援を受けた事業の最新状況

■令和4年度に支援を受け、ポケットカルテと当院電子カルテの連携を完了し、「動く電子カルテ」として患者自身が、診察歴や処方薬、健康診断結果を管理できるようになりました。

透析手帳としても、運用できるようにアドバイスを受けたことにより、自身の透析治療の内容を持ち歩くことができ、安心して生活できるようになりました。

また、ポケットカルテを町民にPRするためにパンフレットを作成し、町内の交流イベントで紹介しました。

今後は、多くの町民や患者のスマートフォンにポケットカルテのアプリを入れていただき、当院及び診療所の電子カルテID番号と連携させていく取組みを進めていきます。

## 地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■ローカル5G等の推進事業を検討中に、総務省ホームページを閲覧し本制度を知った。特に医療DXを進めて行くため、アドバイザー制度を活用したいと希望した。

## 支援を受けた事業が成果につながった要因

■患者がどこでも透析情報を持って歩けることを目指し、電子カルテとの連携を進める中で、安芸太田病院と電子カルテのベンダーだけではスムーズに情報の移行が出来ず、システム面でもハード・ソフト面でも、うまく連携が取れないことがあった。この状況下でアドバイザーに支援していただき、双方の意見を吸い上げ、言い分を上手く繋げていただいた。難しいシステム周りやポケットカルテも熟知されており、あらゆる面で連携していただけた事が一番大きかった。

■本院の考える内在的要因において

- ・町民にとってポケットカルテ最大の有効な特徴の認識合わせが出来た。
- ・デジタル技術を活用して地域課題の解決を図るためにローカル5Gの活用の提案を頂けた。
- ・当院電子カルテシステムとポケットカルテシステムの調整が出来た。
- ・マイナンバーカードと安芸太田町地域通貨MORICAとの連携について検討が出来た。

## 支援したアドバイザーが考える成果の要因

1. 医療機関には、ICTやDXにかかるリテラシーが不足している。
2. ベンダー側には、医療機関における医療実践や地域医療体制に係る情報交流にかかるリテラシーが不足している。
3. 1と2により、発注側である安芸太田町・安芸太田病院の要求と、受注側のベンダーにコミュニケーションエラーが発生していた。
4. これを解決するために、関係者が一同に会するWeb会議を月2回定期開催し、円滑なコミュニケーションを確立した。
5. 更に、実運用面で、「痒い所に手が届く」様な情報提供やアドバイスを実施することで、安心・安全に自主運用可能な体制構築を指導差し上げた。

## 地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■評価・感想 : 限られた予算の中で、専門的な知見を有するアドバイザーから、適切な助言を受けることができ大変、有益な派遣制度でありました。

コロナ禍ではありましたが、オンラインでの支援を行っていただいたことで、時間調整や開催時期も調整がしやすくアドバイス・助言が必要な時に、的確に指示をいただくことができました。